



東北大学

平成27年 2月27日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

次期部局長候補者の内定について

標記について、下記のとおり内定しましたのでお知らせします。

(1) 次期部局長候補者（発令予定日：平成27年4月1日）

氏 名	新任役職名	任 期	新・再	現役職名
高 橋 満	教育学研究科長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	教育学研究科・教授
平 田 武	法学研究科長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	法学研究科・教授
下瀬川 徹	医学系研究科長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	病院長
滝 澤 博 胤	工学研究科長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	工学研究科・教授
駒 井 三千夫	農学研究科長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	再任	農学研究科長
黒 田 卓	国際文化研究科長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	再任	国際文化研究科長
東 谷 篤 志	生命科学研究科長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	生命科学研究科・教授
村 松 淳 司	多元物質科学研究所長	平成27年4月1日 ～平成30年3月31日	新任	多元物質科学研究所・教授
八重樫 伸 生	病院長	平成27年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	医学系研究科・教授
岡 洋 樹	東北アジア研究センター長	平成27年4月1日 ～平成29年3月31日	再任	東北アジア研究センター長

(2) 退任予定部局長

本郷 一夫（教育学研究科長）、渡辺 達徳（法学研究科長）、大内 憲明（医学系研究科長）、金井 浩（工学研究科長）、高橋 秀幸（生命科学研究科長）、河村 純一（多元物質科学研究所長）、の各氏は、本学の部局長を任期満了により退任予定です。

※ 添付：次期部局長候補者略歴等

【本件に関する問い合わせ先】
東北大学総務企画部広報課広報係
電話：022 - 217 - 4977

次期教育学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) たかはし みつる

候補者名 : 高 橋 満

任 期 : 平成27年 4月 1日～平成29年 3月31日 (新任)

生年月日 : 昭和29年12月16日 (60歳)

出 身 地 : 茨城県石岡市

部 局 名 : 教育学研究科

所属専攻・学科名 : 総合教育科学専攻

講 座 (部 門) 名 : 成人継続教育論研究コース

専門分野(専攻)名 : 成人教育論

略 歴 :

昭和59年 3月	東北大学大学院教育学研究科教育学専攻 博士課程後期 3年の課程 単位修得退学
昭和59年 4月	長野大学産業社会学部講師
平成 1年 4月	長野大学産業社会学部助教授
平成 2年 4月	東北大学教育学部講師
平成 3年12月	東北大学教育学部助教授
平成16年 7月	東北大学大学院教育学研究科教授

主な研究業績 :

研究論文

高橋満 福祉のまちづくりと「合意」の形成—学びのコミュニティをつくる. [認知症ケア事例ジャーナル, 6 (3), (2013), 298-308]

高橋満 若者の社会参加のポリティックス. [社会文化研究, (15), (2012), 7-27]

高橋満 看護の力をどのように育むのか. [東北大学大学院教育学研究科年報第 60 集 (第 1 号), (2011), 143-168]

高橋満 看護の力をどのように育むのか(2). [東北大学大学院教育学研究科年報, 60 集 (2), (2012), 99-124]

渡邊祐子 高橋満 美術館経験と意味の構成. [東北大学大学院教育学研究科年報, 62(1), (2013), 91-114]

著 書:

高橋満 コミュニティワークの教育的実践. [東信堂, (2013)]

高橋満 NPOの公共性と生涯学習のガバナンス. [東信堂, (2009)]

高橋満・槇石多希子編著 ジェンダーと成人教育. [創風社, (2005)]

高橋満 ドイツ福祉国家の変容と成人継続教育. [創風社, (2004)]

高橋満 社会教育の現代的実践：学びをつくるコラボレーション. [創風社, (2003)]

次期法学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) ひらた たけし

候補者名 : 平 田 武

任 期 : 平成27年 4月1日～平成29年 3月31日 (新任)

生年月日 : 昭和39年 8月11日 (50歳)

出身地 : 東京都板橋区

部 局 名 : 法学研究科

所属専攻・学科名 : 法政理論研究専攻

講 座 (部 門) 名 : グローバル政治分析講座

専門分野(専攻)名 : ヨーロッパ政治史

略 歴 :

昭和63年 3月	東京大学法学部卒業
平成 2年 3月	東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了
平成 3年 4月	東京大学社会科学研究所助手
平成 9年 4月	東北大学法学部助教授
平成12年 4月	東北大学大学院法学研究科助教授
平成16年 4月	東北大学大学院法学研究科教授
平成20年 4月	東北大学大学院法学研究科副研究科長 (平成22年3月まで)
	東北大学法学部副学部長 (平成22年3月まで)
平成24年 7月	国立大学法人東北大学総長特別補佐 (平成26年3月まで)

主な研究業績 :

- ・平田武「ハンガリーにおけるデモクラシーのバックスライディング」『体制転換／非転換の比較政治 (日本比較政治学会年報第16号)』ミネルヴァ書房、2014年、101-127頁
- ・平田武「1956年ハンガリー革命におけるビボールの政治体制構想——予備的考察——」『法学 (東北大学法学会)』76巻6号、2013年、138-177頁
- ・宇山智彦・大串敦・杉浦史和・平田武・渡邊日日「＜パネルディスカッション＞ソ連崩壊20年とその後の世界」『ロシア・東欧研究』40号、2012年、1-33頁
- ・平田武「『歴史の遺産』とその影響——旧東欧諸国における政治発展と制度選択・デモクラシー——」仙石学・林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済——旧ソ連・中東欧の比較』北海道大学出版会、2011年、19-48頁
- ・平田武「東中欧諸国における政党システムの『安定化』をめぐる」『体制転換の先端的議論 (スラブ・ユーラシア研究報告集2)』北海道大学スラブ研究センター、2010年、21-62頁

- ・平田武「政治発展と政治体制」『東欧史研究』32号、2010年、48-61頁
- ・平田武「ビボー・イシュトヴァーンのヨーロッパ政治発展像——『恐怖なき生』・『支配なき社会』——」『法学(東北大学法学会)』72巻6号、2009年、151-188頁
- ・平田武「1956年革命とハンガリー現代史研究」『東欧史研究』30号、2008年、55-73頁
- ・平田武「オーストリア＝ハンガリー二重君主国における政治発展の隘路(一)」『法学(東北大学法学会)』71巻2号、2007年、1-44頁
- ・Hirata, Takeshi, “The emergence of the party system and the electoral volatility in Central Europe” *Central European Political Science Review*, 1(2), 2000, pp. 72-91.
- ・平田武「東中欧民主化と市民社会論の射程——近代ハンガリー史への視座を交えて——」『法学(東北大学法学会)』63巻3号、1999年、1-34頁
- ・平田武「ハンガリーにおける政府党体制と利益媒介システム(二)」『社会科学研究(東京大学社会科学研究所)』49巻5号、1998年、77-180頁
- ・平田武「ハンガリーにおける政府党体制と利益媒介システム(一)」『社会科学研究(東京大学社会科学研究所)』48巻2号、1996年、1-86頁
- ・平田武「1994年5月ハンガリー総選挙」『東京大学社会科学研究所ディスカッション・ペーパー』J-42、1994年
- ・Hirata Takesi, „A bethleni konszolidáció jellege a nemzetközi szakirodalom tükrében” *Valóság*, 36(11), 1993, 54-66. old.
- ・平田武「戦間期ハンガリー政府党体制の成立過程(1919-1922年)」『社会科学研究(東京大学社会科学研究所)』44巻3号、1992年、1-63頁

著 書：

- ・ケヴェール・ジェルジ著、平田武訳『身分社会と市民社会——19世紀ハンガリー社会史』刀水書房、2013年
- ・羽場久美子編『ハンガリーを知るための47章』明石出版、2002年（第9章「安定と変動」、第10章「二つの世界大戦の敗北とデモクラシーの可能性」担当）
- ・馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック』東京大学出版会、2000年、（第2版）2010年（第10章「ハンガリー」担当）

次期医学系研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) しもせがわ とおる

候補者名 : 下瀬川 徹

任 期 : 平成27年 4月 1日～平成29年 3月31日 (新任)

生年月日 : 昭和28年11月24日 (61歳)

出身地 : 青森県弘前市

部 局 名 : 病院

所属専攻・学科名 : 医学系研究科・医科学専攻

講 座 (部 門) 名 : 内科病態学講座

専門分野(専攻)名 : 消化器病態学

略 歴 :

昭和54年 3月	東北大学医学部医学科卒業
昭和58年 4月	山梨医科大学医学部・助手
昭和58年 7月	東北大学大学院医学研究科・研究生
昭和59年 1月	東北大学医学部附属病院・医員
昭和61年12月	米国オクラホマ州立大学医学部・研究員
昭和62年 7月	米国イリノイ州立大学医学部・研究員
平成 1年 7月	米国イリノイ州立大学医学部・助手
平成 2年 2月	東北大学医学部附属病院・助手
平成 9年 7月	東北大学医学部附属病院・助教授
平成10年 9月	東北大学医学部・教授
平成11年 4月	東北大学大学院医学系研究科・教授
平成14年11月	東北大学医学部附属病院副病院長 (平成15年9月まで)
平成15年10月	東北大学病院副病院長 (平成16年11月まで)
平成21年 4月	東北大学病院副病院長 (平成24年 3月まで)
平成24年 4月	東北大学病院・教授
平成24年 4月	東北大学病院長 (平成27年 3月まで)
平成24年 4月	東北大学副学長 (平成27年 3月まで)

主な役職 :

日本消化器病学会理事長 (平成 26 年 7 月～)

日本消化器病学会理事 (平成 23 年 1 月～平成 26 年 6 月)

日本消化器病学会東北支部長 (平成 19 年 1 月～平成 22 年 12 月)

日本消化器病学会財団評議員（平成12年1月～）

日本消化器関連学会機構理事（JDDW）（平成 27 年 1 月～）

日本膵臓学会理事長（平成 24 年 8 月～）

日本膵臓学会理事（平成 16 年 7 月～平成 21 年 7 月）
（平成 23 年 8 月～平成 24 年 7 月）

日本膵臓学会監事（平成21年8月～平成23年7月）

International Association of Pancreatology（国際膵臓学会）：理事長
（平成 26 年 6 月～）

International Association of Pancreatology（国際膵臓学会）：理事
（平成 12 年 11 月～平成 20 年 6 月）
（平成 25 年 1 月～平成 26 年 5 月）

Asian Pacific Association of Gastroenterology (APAGE)：理事（平成 27 年 1 月～）

日本内科学会理事（平成 25 年 4 月～）

日本内科学会東北支部代表（平成 17 年 1 月～平成 18 年 12 月，
平成 23 年 1 月～平成 24 年 12 月）

日本内科学会評議員（平成 13 年～）

厚生労働省難治性疾患克服研究事業

「難治性膵疾患に関する調査研究」班長（平成 20 年 4 月～平成 26 年 3 月）

Pancreas（米国膵臓学会機関誌）編集委員

Pancreatology（国際膵臓学会機関誌）副編集長（平成 23 年 1 月～平成 24 年 12 月）
「膵臓」（日本膵臓学会機関誌）編集長（平成 18 年 1 月～平成 21 年 12 月）

受賞歴：

特記事項無

主な研究業績：

主な原著論文

1. Shimosegawa T, Kanno A. Autoimmune pancreatitis in Japan: overview and perspective. *J Gastroenterol* 44: 503-17, 2009.
2. Shimosegawa T, et al (total 3, 1st) Chronic pancreatitis and pancreatic cancer: prediction and mechanism. *Clin Gastroenterol Hepatol* 7:S23-S28, 2009.
3. Shimosegawa T, et al (total 17, 1st) The revised Japanese clinical diagnostic criteria for chronic pancreatitis. *J Gastroenterol* 45: 584-91, 2010.
4. Shimosegawa T, et al (total 14, 1st) International consensus diagnostic criteria for autoimmune pancreatitis-Guidelines of the International Association of Pancreatology. *Pancreas* 40: 352-8, 2011.

5. Dellinger EP, Shimosegawa T, et al (total 12, 7th) Determinant-based classification of acute pancreatitis severity: an international multidisciplinary consultation. *Ann Surg* 256: 875-80, 2012.
6. Shimosegawa T. The amendment of the clinical diagnostic criteria in Japan (JPS2011) in response to the proposal of the International Consensus of Diagnostic Criteria (ICDC) for autoimmune pancreatitis. *Pancreas* 41: 1341-2, 2012.
7. Kanno A, Shimosegawa T, et al (total 12, last) Diagnosis of autoimmune pancreatitis by EUS-FNA by using a 22-gauge needle based on the International Consensus Diagnostic Criteria. *Gastroint Endosc* 76: 594-602, 2012.
8. Umehara H, Shimosegawa T, et al (total 26, 13th) Comprehensive diagnostic criteria for IgG4-related disease (IgG4-RD), 2011. *Mod Rheumatol* 22: 21-30, 2012.
9. Kamisawa T, Shimosegawa T. Pancreas: Histological diagnostic criteria for autoimmune pancreatitis. *Nat Rev Gastroenterol Hepatol*, 9: 8-10, 2012.
10. Witt H, Shimosegawa T, et al (total 67, 35th) Variants in CPA1 are strongly associated with early onset chronic pancreatitis. *Nat Genet*, 45: 1216-20, 2013.
11. Takikawa T, Shimosegawa T, et al (total 6, last) miR-210 regulates the interaction between pancreatic cancer cells and stellate cells. *Biochem Biophys Res Commun*, 437: 433-9, 2013.
12. Masamune A, Shimosegawa T, et al (total 6, last) Identification of novel missense CTSC variants in Japanese patients with chronic pancreatitis. *Gut* 62: 653-4, 2013.
13. Ueda J, Shimosegawa T, et al (total 6, last) Surgery for chronic pancreatitis decreases the risk for pancreatic cancer: a multicenter retrospective analysis. *Surgery* 153: 357-64, 2013.
14. Masaka T, Shimosegawa T, et al (total 10, last) Gender differences in oesophageal mucosal injury in a reflux oesophagitis model of rats. *Gut* 62: 6-14, 2013.
15. Hirota M, Shimosegawa T, et al (total 11, 2nd) The seventh nationwide epidemiological survey for chronic pancreatitis in Japan: Clinical significance of smoking habit in Japanese patients. *Pancreatol*, 14: 490-6, 2014.
16. Unno J, Shimosegawa T, et al (total 13, last) The usefulness of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for the diagnosis of pancreatic neuroendocrine tumors based on the World Health Organization classification. *Scand J Gastroenterol* 49: 1367-74, 2014.

17. Sherman MH, Shimosegawa T, et al (total 29, 16th) Vitamin d receptor-mediated stromal reprogramming suppresses pancreatitis and enhances pancreatic cancer therapy. *Cell* 159: 80-93, 2014.
18. Ninomiya M, Shimosegawa T, et al (total 10, last) Sequential analysis amino acid substitutions with hepatitis B virus in association with nucleoside/nucleotide analog treatment detected by deep sequencing. *Hepatol Res*, 44: 678-84, 2014.
19. Hamada S, Shimosegawa T, et al (total 7, last) Nationwide epidemiological survey of acute pancreatitis in Japan. *Pancreas* 43: 1244-8, 2014.
20. Watanabe T, Shimosegawa T, et al (total 12, 10th) NOD2 downregulates colonic inflammation by IRF4-mediated inhibition of K63-linked polyubiquitination of RICK and TRAF6. *Mucosal Immunol* 7: 1312-24, 2014.
21. Hiramoto K, Shimosegawa T, et al (total 7, 6th) Myeloid lineage-specific deletion of antioxidant system enhances tumor metastasis. *Cancer Prev Res* 7:8 35-44, 2014.
22. Iijima K, Shimosegawa T, et al (total 4, last) Cutoff serum pepsinogen values for predicting gastric acid secretion status. *Tohoku J Exper Med* 232: 293-300, 2014.

次期工学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) たきざわ ひろつぐ

候補者名 : 滝澤博胤

任期 : 平成27年 4月 1日～平成29年 3月31日 (新任)

生年月日 : 昭和37年12月29日 (52歳)

出身地 : 秋田県秋田市

部局名 : 工学研究科

所属専攻・学科名 : 応用化学専攻・化学・バイオ工学科

講座(部門)名 : 分子システム化学講座

専門分野(専攻)名 : 極限材料創製化学

略 歴 :

平成 2年 3月	東北大学大学院工学研究科博士課程後期 3 年の課程修了
平成 2年 4月	東北大学工学部助手
平成 5年 8月	東北大学素材工学研究所助手
平成 7年 4月	東北大学工学部助教授
平成 9年 4月	東北大学大学院工学研究科助教授
平成16年 4月	東北大学大学院工学研究科教授
平成22年 4月	東北大学総長特任補佐 (平成24年3月まで)
平成24年 4月	東北大学大学院工学研究科副研究科長 (平成27年3月まで)
平成26年 4月	東北大学総長特別補佐 (平成27年3月まで)

主な研究業績 :

超高压力反応場における新規機能性無機化合物の探索研究 (～平成8年)、マイクロ 波交番電磁場を反応場とした機能性セラミックスの合成研究 (～平成16年)、結晶 化学を基盤とした無機材料の機能設計に関する研究 (～現在)、非平衡反応場プロセッシングに関する研究 (～現在) に従事。

学術論文142編、総説・解説30編

受賞歴 :

日本セラミックス協会学術賞「超高压力場・マイクロ波電磁場を反応場とした新材料創製の研究」 (平成23年 6月)

日本高压力学会奨励賞「超高压合成法による新規遷移金属化合物の創製」 (平成 8年11月)

著 書：

「マイクロ波化学～反応、プロセスと工学応用」三共出版（共著）（平成25年）

「マイクロ波の化学プロセスへの応用」シーエムシー出版（共著）（平成18年）

「演習無機化学」東京化学同人（共著）（平成17年）

「初歩から学ぶマイクロ波応用技術」工業調査会（共著）（平成16年）

「結晶化学入門」講談社サイエンティフィク（共著）（平成12年）

「材料科学・材料工学-基礎から応用まで-」東京化学同人（共訳）（平成24年）

ほか8編

次期農学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) こまい みちお

候補者名 : 駒 井 三千夫

任 期 : 平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 (再任)

生年月日 : 昭和 28 年 11 月 28 日 (61 歳)

出身地 : 宮城県栗原市

部 局 名 : 農学研究科

所属専攻・学科名 : 生物産業創成科学専攻

講 座 (部 門) 名 : 食品機能健康科学講座

専門分野(専攻)名 : 栄養学

略 歴 :

昭和51年 3月	東北大学農学部卒業
昭和53年 3月	東北大学大学院農学研究科修士課程修了
昭和56年 4月	東北大学大学院農学研究科博士課程研究指導認定退学
昭和56年 4月	東北大学農学部助手
昭和58年 3月	東北大学大学院農学研究科博士課程修了
平成 8年 4月	東北大学農学部助教授
平成11年 4月	東北大学大学院農学研究科助教授
平成14年 7月	東北大学大学院農学研究科教授
平成25年 4月	東北大学大学院農学研究科長 (平成27年3月まで)

主な研究業績:

ビタミン K 同族体の新規生理機能の解明
味覚機能と食欲調節における亜鉛の機能性の解明

受 賞 歴:

日本味と匂学会第 14 回高砂研究奨励賞 (1998 年)
第 24 回日本微量元素学会 学会賞 (2013 年)
第 68 回日本栄養・食糧学会 学会賞 (2014 年)

著 書:

亜鉛の機能と健康 (責任編集及び分担) 駒井三千夫・神戸大朋編 建帛社、2013 年
基礎栄養学 (編著者及び分担) 駒井三千夫・正木恭介編 アイ・ケイコーポレーション、2013 年

ビタミン総合辞典（分担執筆）日本ビタミン学会編 朝倉書店 2010 年、
わかりやすい食品機能栄養学（共著） 三共出版 2010 年、
味のしくみ（分子生物学）、栄養・食糧学データハンドブック（共著） 同文書院 2006
年。

次期国際文化研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) くろだ たかし

候補者名：黒 田 卓

任 期：平成27年 4月 1日～平成29年 3月31日（再任）

生年月日：昭和30年 9月 4日生（59歳）

出 身 地：京都府京都市

部 局 名：国際文化研究科

所属専攻・学科名：国際地域文化論専攻イスラム圏研究講座

専門分野(専攻名)：中東近現代史

略 歴：

昭和55年 3月 京都大学文学部卒業

昭和57年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了

昭和60年 3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学

昭和62年 4月 香川大学教育学部助手

昭和63年10月 香川大学教育学部講師

平成元年10月 香川大学教育学部助教授

平成 5年 4月 東北大学大学院国際文化研究科助教授

平成19年 4月 東北大学大学院国際文化研究科教授

平成21年 4月 東北大学大学院国際文化研究科長補佐（平成23年3月まで）

平成25年 4月 東北大学大学院国際文化研究科長（平成27年3月まで）

主な研究業績：

（論文）

1. 18世紀後半インド在住イラン家系出自ムスリムの訪欧旅行記 国際文化研究科論集, 20, (2012), 95-113
2. イランソヴィエト社会主義共和国（「ギーラーン共和国」）におけるコムニスト政変
岡洋樹編 歴史の再定義 東北アジア研究センター叢書第45号(2011), 133-168
3. ヘイダル・ハーンの事績再考 上智アジア学, (25), (2008), 192-215
4. 変容のなかのイスラーム主義. インターカルチュラル, (5), (2007), 56-61
5. イラン人下級官僚が見たジャンギアリー＝ポリシェヴィキ同盟. 平成14年度～平成17年度科研費補助金基盤研究A研究成果報告書, (2006), 189-203
6. イラン立憲革命百周年記念国際学会報告. イスラム世界, 66, (2006), 48-54

7. ジャンギャリー運動末期におけるイラン・ソ連関係の一断面 ― 関連ロシア語文書の紹介 ― 中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像、東北大学東北アジア研究センター, (2003), 95-110
8. Negahi bar Ravabet-e Khareji-ye Iran va Shuravi dar Ertebat ba Nehzat-e Jangal *Bulletin of Centre for Graduate International Studies*, Faculty of Law and Political Science, University of Tehran, 3(1), (2002), 51-52
9. 新聞のなかのイラン立憲革命. 岩波講座世界歴史 (岩波書店), 23, (1999), 83-109
10. 書評: 八尾師誠著『イラン近代の原像ーサッタール・ハーンの革命』. 歴史学研究, 726, (1999), 47-50
11. 19世紀末から20世紀初めにかけてのアゼルバイジャンの新聞についてーA. アガーエフを中心にー. 木村喜博編「現代中央アジアの社会変容」(東北大学学際科学研究センター), (1999), 127-143
12. 19世紀末から20世紀初めにかけてのアゼルバイジャンの新聞についてーA. アガーエフを中心にー. 「中央アジアの社会変容に関する総合研究」中間報告, 東北大学学際科学研究センター, (1998), 119-134

著 書:

1. 朝倉世界地理講座第6巻西アジア. 朝倉書店, (2010) 黒田 卓, 後藤 明, 木村喜博, 安田喜憲, 他25名 ISBN978-4-254-16796-2
2. 中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像. 東北大学東北アジア研究センター, (2003) 黒田 卓, 高倉浩樹, 塩谷昌史
3. 岩波イスラーム辞典. 岩波書店, (2002) 黒田 卓、大塚和夫、小杉 泰、小松久男、東長 靖、山内昌之、他多数
4. 世界民族事典. 弘文堂, (2000) 黒田 卓、織部恒雄、他多数
5. アジアの歴史と文化第9巻西アジア. 同朋舎, (2000) 黒田 卓, 間野英二他15名
6. 世界民族問題事典. 平凡社, (1995) 黒田 卓、梅棹忠夫、松原正毅、他多数
7. 事典イスラームの都市性. 亜紀書房, (1992) 黒田 卓、板垣雄三、後藤 明、他多数
8. 中東世界ー国際問題と民族問題ー. 世界思想社, (1992) 黒田 卓, 岡崎正孝他12名

次期生命科学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) ひがしたに あつし

候補者名 : 東 谷 篤 志

任 期 : 平成27年 4月 1日～平成29年 3月31日 (新任)

生年月日 : 昭和37年 9月 3日 (52歳)

出身地 : 京都府京都市

部 局 名 : 生命科学研究科

所属専攻・学科名 : 生態システム生命科学専攻

講 座 (部 門) 名 : 進化生態科学講座

専門分野(専攻)名 : 分子遺伝学

略 歴 :

平成 2年 2月 名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了
平成 2年 3月 国立遺伝学研究所助手
平成 7年 4月 総合研究大学院大学生命科学研究科助手 (併任)
平成 9年 3月 東北大学遺伝生態研究センター助教授
平成13年 4月 東北大学大学院生命科学研究科教授

主な研究業績 :

Reduction of gibberellin by low temperature disrupts pollen development in rice.

Sakata T, et al. *Plant Physiol.* 2014 Apr;164(4):2011-9.

The effectiveness of RNAi in *Caenorhabditis elegans* is maintained during spaceflight.

Etheridge T, et al. *PLoS One.* 2011;6(6):e20459.

Auxins reverse plant male sterility caused by high temperatures.

Sakata T, et al. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2010 May 11;107(19):8569-74.

Checkpoint and physiological apoptosis in germ cells proceeds normally in spaceflown *Caenorhabditis elegans*.

Higashitani A, et al. *Apoptosis.* 2005 Oct;10(5):949-54.

Hyper-resistance of meiotic cells to radiation due to a strong expression of a single *recA*-like gene in *Caenorhabditis elegans*.

Takanami T, et al. *Nucleic Acids Res.* 2000 Nov 1;28(21):4232-6.

Minus-strand origin of filamentous phage versus transcriptional promoters in recognition of RNA polymerase.

Higashitani A, et al. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 1997 Apr 1;94(7):2909-14.

受 賞 歴 :

日本宇宙生物科学会賞 2013, Genes and Genetic Systems GSS Prize 2005

次期多元物質科学研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) むらまつ あつし

候補者名 : 村 松 淳 司

任 期 : 平成27年 4月 1日～平成30年 3月31日 (新任)

生年月日 : 昭和34年 3月12日 (55歳)

出身地 : 愛知県豊川市

部 局 名 : 多元物質科学研究所

講 座 (部 門) 名 : プロセスシステム工学研究部門

専門分野(専攻)名 : 微粒子素材工学

略 歴 :

昭和63年 3月	東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
昭和63年 4月	東北大学選鉱製錬研究所助手
平成 4年 4月	東北大学素材工学研究所助手
平成 5年 8月	東北大学素材工学研究所講師
平成 7年 2月	東北大学素材工学研究所助教授
平成13年 4月	東北大学多元物質科学研究所融合システム研究部門教授
平成16年 4月	東北大学多元物質科学研究所附属多元ナノ材料研究センター教授
平成18年 4月	東北大学多元物質科学研究所附属多元ナノ材料研究センター長 (平成20年3月まで)
平成22年 4月	東北大学多元物質科学研究所教授

主な研究業績 : (最近の5件)

1. Dong Wang, Feng Liu, Noritoshi Yagihashi, Masafumi Nakaya, Sunzida Ferdous, Xiaobin Liang, Atsushi Muramatsu, Ken Nakajima, Thomas P. Russell, "New Insight Into Morphology of High Performance BHJ Photovoltaics Revealed by High Resolution AFM" *Nano Letters* 14, 5727-5732 (2014).
2. Takeshi Kimijima, Kiyoshi Kanie, Masafumi Nakaya, Atsushi Muramatsu, "Hydrothermal synthesis of size- and shape-controlled CaTiO₃ fine particles and their photocatalytic activity", *Crystal Engineering Communication*, 16, 5591-5597 (2014).
3. Takeshi Kimijima, Kiyoshi Kanie, Masafumi Nakaya, Atsushi Muramatsu, "Solvothermal synthesis of SrTiO₃ nanoparticles precisely controlled in surface crystal planes and their photocatalytic activity", *Applied Catalysis B: Environmental*, 144, 462-467 (2014).
4. Masafumi Nakaya, Ryo Nishida, Atsushi Muramatsu, "Size Control of Magnetite

Nanoparticles in Excess Ligands as a Function of Reaction Temperature and Time”, *Molecules*, 19, 11395–11403 (2014).

5. Kiyoshi Kanie, Yuki Seino, Masaki Matsubara, Masafumi Nakaya, Atsushi Muramatsu, “Hydrothermal synthesis of BaZrO₃ fine particles controlled in size and shape and fluorescence behavior by europium doping”, *New Journal of Chemistry*, 38, 3548–3555 (2014).

ほか、全177件。

公開特許のうち、実用化した ITO 粒子については「ITO 粉末およびその製造方法、透明導電材用塗料並びに透明導電膜」(特開 2008–222467 (P 2008–222467A)) 「ITO 粉末、ITO 粒子の製造方法、透明導電材用塗料並びに透明導電膜」(特開 2011–126746 (P 2010–126746A)) など。その他の粒子については実用化につながった特許「ニオブ酸アルカリ金属塩粒子の製造方法、およびニオブ酸アルカリ金属塩粒子」(特開 2010–241658 (P 2010–241658A)) など。ナノ粒子に関する特許は、公開日 2006 年以降、全部で合計 18 件。

国際特許は EURO2 件、アジア 2 件。出願中は 9 件。

受賞歴:

- 1991 年 7 月 金属助成会研究奨励賞
1992 年 3 月 資源・素材学会論文賞
1993 年 3 月 日本金属学会金属組織写真賞
1993 年 7 月 日本素材物性学会山崎賞
1993 年 9 月 International Metallographic Contest, Honorable Mention in
the electron microscopy transmission and analytical class,
1994 年 5 月 石油学会奨励賞
2004 年 3 月 資源・素材学会論文賞
2012 年 3 月 日本金属学会論文賞
2014 年 5 月 兵庫県功労賞 (防災功労)

著書:

1. Morphology Control of Materials and Nanoparticles: Advanced Materials Processing and Characterization (Springer Series in Materials Science) . Yoshio Waseda, Atsushi Muramatsu, Eds. 2003/10/8.
 2. Nanohybridization of Organic-Inorganic Materials (Advances in Materials Research) Atsushi Muramatsu, Tokuji Miyashita, Eds. 2009/11/23
- など

次期病院長候補者の略歴等

(ふりがな) やえがし のぶお

候補者名 : 八重樫 伸生

任 期 : 平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日 (新任)

生年月日 : 昭和35年 1月25日 (55歳)

出身地 : 岩手県花巻市

部 局 名 : 医学系研究科

所属専攻・学科名 : 医科学専攻・博士課程

講 座 (部 門) 名 : 発生発達医学講座

専門分野(専攻)名 : 婦人科学

略 歴 :

昭和59年 3月	東北大学医学部医学科卒業
昭和59年 8月	八戸市立市民病院産婦人科医師
平成 2年 2月	米国フレッド・ハッチンソン癌研究所 Postdoctoral Fellow (Seattle、Galloway教授、HPVワクチン開発に関する研究)
平成 4年 2月	東北大学医学部附属病院産科婦人科助手
平成 6年10月	古川市立病院産婦人科科長
平成 8年10月	東北大学医学部附属病院産科婦人科講師
平成12年10月	東北大学大学院医学系研究科婦人科学分野教授
平成18年 3月	婦人科がん患者会「カトレアの森」顧問
平成20年 4月	東北大学大学院医学系研究科医科学専攻長 (併任) (平成22年 3月まで)
平成20年 4月	東北大学大学院医学系研究科先進漢方治療医学寄附講座教授 (併任) (平成24年 9月まで)
平成21年 4月	東北大学病院周産母子センター部長 (併任)
平成21年 4月	東北大学大学院医学系研究科周産期医学分野教授 (兼担)
平成22年 4月	東北大学病院副病院長 (教育・研究担当) (併任) (平成24年 3月まで)
平成22年 4月	東北大学大学院医学系研究科周産期医療人材養成寄附講座教授 (併任) (平成26年 3月まで)
平成22年 8月	東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究 (エコチル) センター長 (併任)
平成24年 4月	東北大学東北メディカル・メガバンク機構副機構長 (併任)
平成24年 4月	東北大学病院臨床試験推進センター長 (併任) (平成25年 5月まで)

主な研究業績：

- ・ 婦人科がんの治療開発
- ・ 産婦人科感染症に関する研究
- ・ 産婦人科の医療機器開発

受賞歴：

- ・ 東北大学医学部奨学賞金賞（平成12年 1月）

著 書：

- ・ 八重樫伸生 他、患者さんご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドラインの解説、金原出版、2010；日本婦人科腫瘍学会編（ガイドライン作成委員長）
- ・ 八重樫伸生 他、卵巣がん治療ガイドライン2010年版（第3版）、金原出版、2010；日本婦人科腫瘍学会編（ガイドライン作成委員長）
- ・ 八重樫伸生 他、子宮頸癌治療ガイドライン2011年版（第2版）、金原出版、2011；日本婦人科腫瘍学会編（ガイドライン作成委員長）
- ・ 八重樫伸生 他、子宮体がん治療ガイドライン2013年版（第3版）、金原出版、2013；日本婦人科腫瘍学会編（ガイドライン作成第2代委員長）

次期東北アジア研究センター長候補者の略歴等

(ふりがな) おか ひろき

候補者名 : 岡 洋 樹

任 期 : 平成27年 4月 1日～平成29年 3月31日 (再任)

生年月日 : 昭和34年 7月21日 (55歳)

出身地 : 東京都世田谷区

部 局 名 : 東北アジア研究センター

講 座 (部 門) 名 : 基礎研究部門

専門分野(専攻)名 : 東洋史、モンゴル史

略 歴 :

昭和61年 3月	早稲田大学大学院文学研究科史学 (東洋史) 専攻修士課程修了
平成 2年 4月	早稲田大学第一・第二文学部助手
平成 3年 3月	早稲田大学大学院文学研究科史学 (東洋史) 専攻博士後期課程 単位取得退学
平成 5年 4月	日本学術振興会特別研究員
平成 8年 8月	東北大学東北アジア研究センター助教授
平成17年 5月	文学博士 (早稲田大学) 学位取得
平成18年 4月	東北大学東北アジア研究センター教授
平成20年 4月	東北大学総長特別補佐 (平成21年3月まで)
平成25年 4月	東北大学東北アジア研究センター長 (平成27年3月まで)

主な研究業績 :

- 1: 「定辺左副将軍ツェンゲンジャヴとその立場: 清朝のハルハ＝モンゴル支配研究への導論として」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 哲学・史学編』別冊第13集、1987年 1 月、167～180 頁。
- 2: 「ハルハ・モンゴルにおける清朝の盟旗制支配の成立過程: 牧地の問題を中心として」『史学雑誌』第97編第2号、1988年2月、1～32頁。査読有り
- 3: 「乾隆期中葉における清朝のハルハ支配強化とサンザイドルジ」『東洋学報』第69編第3/4号、1988年 3 月、173～194頁。査読有り
- 4: 「定辺左副将軍の権限回収問題と『将軍・参贊大臣・盟長・副将軍辦理事務章程』」『史観』第119冊、1988年9月、16～29頁。

5: Political Role of the Buddhist Church of Qalq-a Mongolia in the mid-Eighteenth Century. Altaic Religious Beliefs and Practices: Proceedings of the 33rd Meeting of the Permanent International Altaic Conference. BUDAPEST June 24-29, 1990. Ed. by Geza Bethlenfalvy et al., Budapest, 1992, pp.263-266.

6: 「乾隆帝の対ハルハ政策とハルハの対応」『東洋学報』第73巻第1/2号、1992年1月、31～61頁。
査読有り

7: 「第三代ジェヴツンダムバ・ホトクトの転生と乾隆帝の対ハルハ政策」『東方学』第83輯、1992年1月、95～108頁。査読有り

8: 「『庫倫辦事大臣』に関する一考察」『神田信夫先生古稀記念論集 清朝と東アジア』山川出版社、1992年1月、197～214頁。

9: 「ハルハ副将軍について」『日本モンゴル学会紀要』Nos.22 (1991)/23 (1992)、1993年3月、1～13頁。査読有り

10: 「清朝とハルハ『八扎薩克』について」『東洋史研究』第52巻第2号、1993年9月、75～101頁。The Qing Dynasty and the Eight jasaGs 八扎薩克 of Qalq-a 喀爾喀 Mongol. The Toyoshi Kenkyu (The Journal of Oriental Researches) Vol.LII, No.2, September 1993, pp.75-101.査読有り

11 「ホヴド・オオルト旗の成立：乾隆期中葉におけるザサク旗に関する一考察」『松村潤先生古稀記念清代史論叢』1994年3月、95～108頁。

12 「乾隆三〇年のサンザイドルジ等による対ロシア密貿易事件について」『清代中国の諸問題』（石橋秀雄編）、1995年7月、365～382頁。

13 「清代ハルハ＝モンゴルの教訓書の一側面：プレヴジャヴ布告文を中心に」『内陸アジア史研究』第12号、1997年3月、23～45頁。査読有り

14 「清代ハルハ・モンゴルの比丁冊」『東北アジア研究』第2号、1998年3月31日、211-234頁。
査読有り

15 "The Mongols and The Qing Dynasty: The North Asian Feature of Qing Rule over Mongolia" Facets of Transformation of the Northeast Asian Countries. (ed. by Tadashi Yoshida et al.) Northeast Asian Study Series 1, The Center for Northeast Asian Studies, Tohoku Univ., March 1998, pp.129-151.

16. Чин улсын үеийн Халхын он дарааллын бичиг “Эрдэнийн эрх”-ийн тухай зарим асуудал. Түүхийн Судлал, Studia Historica Tomus. XXXI, Fasc. 1, Улаанбаатар, 1999. 1-18 тал.

17「清代モンゴル・ザサグ旗官制について：外モンゴル・ハルハ・セツェン＝ハン部中末旗を事例として」『集刊東洋学』第81号、1999年5月30日、118-100頁。査読有り

18. 「清代ハルハ・モンゴルにおけるタイジと随丁——ハルハ東路セツェン＝ハン部中末旗を事例として——」『国際文化研究』（東北大学国際文化学会）第6号、1999年12月31日、29～43頁。1999.査読有り

19. Чин улгын үеийн Монголын засаг хошууны нийгмийн зохион байгуулалгын тухай шинэ асуудал. Changing Paradigm of Mongolian Studies : Between Documents and the Field. Papers presented at the Twenty-Second Taniguchi International Symposium. Ed. by Yuki Konagaya, Mongolian Culture Studies II, International Society for the Study of the Culture and Economy of the Ordos Mongols (OMSe.V.), Koln Germany, 2001. pp.71-103.

20. 「乾隆期中葉ハルハ・モンゴルにおける漢人旅蒙商の商業活動」山田勝芳編『東北アジアにおける交易拠点の比較研究』東北アジア研究センター叢書第1号、東北アジア研究センター、2001年、17～33頁。

21. 「モンゴル国立歴史中央アルヒーヴ所蔵「将軍・参贊大臣・盟長・副将軍兜理事務章程」満文論旨とそのモンゴル語訳文書」『満族史研究通信』第10号、2001年4月10日、58～81頁。査読有り

22. 「モンゴルにおける地方社会の伝統的構成単位オトグ・バグについて——モンゴル国ヘンティ・アイマグ、ガルシャル・ソム調査報告——」岡 洋樹編『モンゴル研究論集 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告I』東北アジア研究センター叢書 第6号、東北大学東北アジア研究センター、2002年、209～233頁。

23. 「東北アジア地域史と清朝の帝国統治」『歴史評論』2003年10月号（No.642）、2003年10月1日、50～59頁。招待論文

24: Манжийн үеийн Монголын нийгэм дэх отог, багийн тухай. Монголын түүх, угсаатны судлалын зарим асуудал. Монголын түүх, угсаатны судлалын зарим асуудал. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы Төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2003 оны 9 сарын 15. Эмхэтгэсэн Аюудайн Очир, Ока Хироки. Northeast Asian Study Series 7, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2004. pp.65-74.

25 : 《jasaGtu qan ayimaG-un teUke》 ba manju-yin Uy-e-yin teUke bicilge. mongGul tulGur bicig-Un sudulul. (蒙古文献研究) wang manduG-a Goullan nayiraGulba. tOb-Un UndUsUten-U yeke

surGaGuli-yin mongGul sudulul-un cubural bicig (nige)中央民族大学蒙古学叢書. 北京、民族出版社、2005. pp.465-468.

26 : 「道光3年のウリヤスタイ将軍の布告文について」『東北アジア研究』第10号、2006年3月30日、33～51頁。

27 : Манжийн үеийн засаг хошуу ба Монголын тусгаар тогтнолын нийгмийн нөхцөл. 1911 оны Монголын үндэсний хувьсгалын урьдчилсан нөхцөл ба олон улсын байдал. Монгол улсын ШУА-ийн Олон Улс Судлалын Хүрээлэн, Японы Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2005 оны 12 сарын 21. Эмхэтгэсэн Ока Хироки, О. Батсайхан. Northeast Asian Study Series 9, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 2006. 5-16 тал.

28 : 「清初、『外藩王公』成立過程におけるホルチン王家の地位について」早稲田大学モンゴル研究所編『近現代内モンゴル東部の変容』アジア地域文化学叢書8、東京、雄山閣、2007年3月、47-70頁。

29 : 「清代史料にみえるモンゴルの災害に関する情報について」『モンゴルの環境と変容する社会 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告II』東北大学東北アジア研究センター叢書第27号、仙台、2007年3月、45-74頁。

30 : 「十九世紀ハルハ・モンゴルの布告文にみる地方行政——『プレヴジャヴ布告文』を中心として——」細谷良夫編『清朝史研究の新たな地平 フィールドと文書を追って』東京、山川出版社、2008年2月、288-309頁。招待論文

31 : T@r gerelti;n #-r on: Uliasta;n janjn: uhuulah bixgi;n tuha;6 宝力格主編『中国蒙古学国際学術討論会論文集』呼和浩特；内蒙古教育出版社、2008年4月、597-607頁

32 : 「清朝の満洲・モンゴル統治」岡洋樹・境田清隆・佐々木史郎共編『朝倉世界地理講座——大地と人間の物語—— 東北アジア』東京；朝倉書店、2009年11月、130-139頁。

33 : 「清代モンゴルにおける旗籍離脱と清朝統治——ウラド後旗と広覚寺の属民争奪の経緯からみた旗民の地位——」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流——近現代中国の南と北——』人間文化叢書 ユーラシアと日本——交流と表象——。東京；有志舎、2010年3月、305-341頁。招待論文

34 : 「清朝の外藩モンゴル統治における新政の位置」『歴史評論』No.725 (2010年9月号)、2010年9月1日、16-26頁。招待論文

35 : Xingynjav:n boslog:n y.i:n halh:n ni:gmi;n n@hc@l ba;dl:n tuha;6XVII-XX zuun: ehen y.i:n Mongol:n tyuhi;n sudalgaa6 8Olon uls:n erdem winjilgeeni; hurl:n emhtgel 6 2010.VII.19-25. Ulaanbaatar-M@r@n96 Emhtgesen S6 Xuluun5 E6 Jigmeddorj5 Ulaanbaatar5 "0!06 "(-#& tal6

36 : Өвөр халхын түүхэнд холбогдох нэгэн сурвалж: Гүрбүш эфүгийн данс. Монголын түүх судлал ба сурвалж, Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, БНХАУ-ын Өвөр Монголын Багшийн Их Сургуулийн Монгол Судлалын Дээд Сургууль, Японы Тохокү Их Сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төв хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал. Улаанбаатар, 2009 оны 9 сарын 20-21. Эмхэтгэсэн Чулууны Дашдаваа, Чингэлт, Ока Хироки. CNEAS Reports 2, Sendai; Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2011. 245-252.

37 : 「モンゴルにおける清朝支配期に関する歴史記述の変化をめぐって」岡洋樹編『歴史の再定義——旧ソ連圏アジア諸国における歴史認識と学術・教育——』東北アジア研究センター叢書第45号、仙台；東北大学東北アジア研究センター、2011年37-69頁

38 : 「清入関前対外藩蒙古所制殺害逃亡者処罰規定雑考」『紀念王鍾翰先生百年誕辰學術文集』北京；中央民族大学出版社、2013年、353-365頁

39 : Манжийн үеийн хамжлагын үүслийн тухай. Чин улс ба монголчууд. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, БНХАУ-ын Өвөр Монголын Багшийн Их Сургуулийн Аялал Жуулчлалын Дээд Сургууль, Японы Тохокү Их Сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төв хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Улаанбаатар, Монгол улс, 2012 оны 9 сарын 7. Эмхтгэсэн Сампилдондовын Чулуун, Хурц, Ока Хироки. CNEAS Reports 13, Sendai, 2014. 15-29 тал.

受賞歴:

1986 (昭和61) 年 3 月 修士論文「乾隆期清朝のハルハ・モンゴル支配」で小野梓記念学術賞（早稲田大学に設置）を受賞

1988 (昭和63) 年 3 月 論文「ハルハ・モンゴルにおける清朝の盟旗制支配の成立過程：牧地の問題を中心として」（『史学雑誌』第97編第2号、昭和63年2月）により流沙海西奨学金（東京大学東洋文化研究所に設置）を受賞

2007年12月7日 Honorary Doctor, Mongolian Academy of Sciences, The Ulaanbaatar University, Mongolia.

著書:

1 : Facets of Transformation of the Northeast Asian Countries. Co-edited with Tadashi Yoshida, Northeast Asian Study Series 1, The Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 1998.

Facets of Transformation of the Northeast Asian Countries II. Northeast Asian Study Series 3, The Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 1999.

岡 洋樹編『モンゴル研究論集 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告I』東北アジア研究センター叢書 第6号、東北大学東北アジア研究センター、2002年。

岡 洋樹・高倉浩樹編『東北アジア地域論の可能性 歴史学・言語学・人類学・政治経済学からの視座』東北アジア研究シリーズ④、東北大学東北アジア研究センター、2002年。

岡 洋樹・高倉浩樹・上野稔弘編『東北アジアにおける民族と政治』東北アジア研究シリーズ⑤、東北大学東北アジア研究センター、2003年。

Монголын түүх, угсаатны судлалын зарим асуудал. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы Төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2003 оны 9 сарын 15. Эмхэтгэсэн Аюудайн Очир, Ока Хироки. Northeast Asian Study Series 7, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2004.

1911 оны Монголын үндэсний хувьсгалын урьдчилсан нөхцөл ба олон улсын байдал. Монгол улсын ШУА-ийн Олон Улс Судлалын Хүрээлэн, Японы Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Монгол Японы төв, Улаанбаатар, Монгол улс, 2005 оны 12 сарын 21. Эмхэтгэсэн Ока Хироки, О. Батсайхан. Northeast Asian Study Series 9, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, Sendai, 2006.

『清代モンゴル盟旗制度の研究』東京、東方書店、2007年2月。

岡洋樹編『モンゴルの環境と変容する社会 東北大学東北アジア研究センター・モンゴル研究成果報告II』東北大学東北アジア研究センター叢書第27号、仙台、2007年3月。

岡洋樹編『内なる他者＝周辺民族の自己認識のなかの「中国」——モンゴルと華南の視座から——』東北アジア研究シリーズ⑩、東北大学東北アジア研究センター、仙台、2009年3月。

Монголын түүхийн судалгааны шинэ хандлага, тулгамдсан асуудал 8XVII-XX зууны эхэн9. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн хүрээлэн, Японы Тохокү их сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төвөөс зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал, Улаанбаатар, 2007 оны 9 сарын 6-7. Эмхэтгэсэн Чулууны Дашдаваа, Ока Хироки. Northeast Asian Study Series 10, Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2009.

岡洋樹・境田清隆・佐々木史郎共編『朝倉世界地理講座——大地と人間の物語—— 東北アジア』
東京；朝倉書店、2009年11月

岡洋樹編『歴史の再定義——旧ソ連圏アジア諸国における歴史認識と学術・教育——』東北アジア
研究センター叢書第45号、仙台；東北大学東北アジア研究センター、2011年

Монголын түүх судлал ба сурвалж, Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, БНХАУ-ын Өвөр
Монголын Багшийн Их Сургуулийн Монгол Судлалын Дээд Сургууль, Японы Тохoku Их
Сургуулийн Зүүнхойт Ази Судлалын Төв хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага
хурал. Улаанбаатар, 2009 оны 9 сарын 20-21. Эмхэтгэсэн Чулууны Дашдаваа, Чингэлт, Ока
Хироки. CNEAS Reports 2, Sendai; Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University, 2011.

Чин улс ба монголчууд. Монгол улсын ШУА-ийн Түүхийн Хүрээлэн, БНХАУ-ын Өвөр Монголын
Багшийн Их Сургуулийн Аялал Жуулчлалын Дээд Сургууль, Японы Тохoku Их Сургуулийн
Зүүнхойт Ази Судлалын Төв хамтран зохион байгуулсан эрдэм шинжилгээний бага хурал,
Улаанбаатар, Монгол улс, 2012 оны 9 сарын 7. Эмхтгэсэн Сампилдондовын Чулуун, Хурц, Ока
Хироки. CNEAS Reports 13, Sendai, 2014.